

ましたが、はなればなれになつてしまひました。ぼくはそばにゐたひげのあるよそのをぢさんに、たすけてくださいとたのみました。するとをぢさんはぼくをおぶつてくれました。おかげさまでたすかつたことをぼくはわすれません。

### ぢしんとくわじのこと

本所區 小梅尋常小學校

二女 相 川 壽 子

昨年九月一日、十二時ごろおとうさんと私とおにかいておはなしをしてゐますと、みりみりと音がして、家がぐらぐらうごきました。いまにもたふれそうで、こわくてこわくて、おとうさんにつかまつてふるへてゐました。その内ぢしんはやみました。外に出て方方を見ますと、家がたふれたりまがつたり、かべがをちたりかはらがをちた家がたくさんありました。私の家はなんともありませんでした。少したつて

南の方からくわじがはじまりました。荷物を水戸様にはへはこびはじめますとだんだん大きな風が出てたちまち大きなくわじになりました。けむいのとあついで荷物をすてて三人でむちゆうでにげました。人や荷物におされて、おとうさんにはぐれました。私はなきながらうらんとよんでもへんじがありません。よくみますと、やけどをしてかほも、くびも手も、ひじもひざも、かわがむけて、口もきけません。よそのかたに、すみ田川の水をくんでいただいて、おかあさんのもつてゐたてぬぐひにしたしてのますと口がきけましたが、どちらへも行くことが出来ませんから、どてのさくらの木につかまつてゐました。三方から火のこがふつてずいぶんくるしうございました。夜のあけるのをまつて、いなかのしんせきにいきました。それからおいしや様に毎日きていただいて二十四五日のうちすこしよくなりました。その内にだんだんよくなりました。今ではすつかりよくなりました。



ボクラノキヤウシツ

本所區 柳元尋常小學校

中村 知也(十才)

ボクラノキヤウシツハツイブンソマツナキヤウシツデス。

ユカニハアンペラガシイテアリマス。

入口ト、マドハ四ツツアリマスガ、ガラスシヨウジガナイノデシ

メルト、マツクラニナリマス。ソレデスカラ、デンキガ四ツツイテキ

マス。

ボウシハカケルトコロガナイノデ、ウシロノ方ノツクエノ上ニノセ

テアリマス。

ゲタバコハナイノデ、キヤウシツノスミノタナノ上ニノセテオキマ

ス。ヒバチハ二ツアリマスガ、アンマリアタタカデハアリマセン。

ゑ本をいただいて

本所區 柳元尋常小學校

尾崎 たづ子(九才)

きのふはゑ本を先生が皆さんにくばってくださいました。私はゑ本  
がすきですから毎月幼女の友をよんでゐましたがあのほかじてゑ本も  
みんなやけてしまつてさみしくてこまつてをりましたら先生がこれは  
やけない皆さんのおともだちがあなたがかはいさうだといつてた  
いせつな本をおくつて下さいましたからだいじにごらんなさいとおつ  
しやつてゑ本を一きつづつくださいました。私はうれしくて  
たまりませんでした。私のゑ本は幼女ゑざつしといふゑ本です。その  
中では春子さんとおくわしと一つとやのうたが一ばんすきです。

大火の朝

本所區



### 大火の時

本所區 三笠尋常小學校

二男 大谷 眞一郎

九月一日大地しん、大火の時に學校へ行つてゐました。學校がはじまつたのでよろこんであそんでゐますとそのうちに大地しんがはぢまつて家がたふれさうになりました。家がとほくて父さん母さんがむかひにきませんから赤星先生と學校のまへにしやがんでゐましたら向ふの方から大火事になつてきました。これはもうここにゐたらやけ死てしまふだらふのでこれはたまらないと思つてそして十人ばかりで赤星先生といつしよにみとさまのおやしきへいつて安心だとおもふとまた向ふの方から火におはれて大川のそばにいて赤星先生が大川の中にはえつて火におはれてあつと思つて水をあたまからかけてくださつたときはうれしうござひました。そしてあすのあさ人ばかりでにげてい

つててらじまがくかうに行きました。父さんや母さんにはなれてゐる人はここにあづかります。とかいてあります。だから皆さんはよろこびました。すぐにおむすびをいただいでよろこびました。それからだんだんくらくなつてねましたときに父さんのゆめをみました。父さんがきむらにはいつて死んだところのゆめをみました。やつと六日になつて父さんがたいへい學校の先生といつしよにむかひにきました。そのときにはどんなにうれしかつたかあんなうれしいことははぢめてです。そして母さんにおとうとふたりはわたくしのくるのをまつてゐましたちやうどかへつてきましたので二人は大そうよろこびました。そして晩になつてうちのようすをすつかりききました。見るとすつかりのはらのやうになつてゐます。それから小さいうちをたててすむことになりました。

大火の時

本所區



## 大火事の時

本所區 三笠尋常小學校

第二學年女 山下千代子

大火事の時、私はなんにももたずに、お父さんにつれられてにげました。お父さんは、つづらをかついで、おかあさんは、ふとんをもつてにげました。

高ばしの近くまで行くと、前から火が來ました、あとにもどろうとすると、うしろもやけてゐます。ほんとうに、あぶなくなりましてので、にもつをすててしまひました。

それからまがりかどがあつたから、そこをまがつて、行きますと皆さんたちもはえつて來ました。そこで私はころがつたのです、そこにはもう五十人ばかり死でゐました。そこへ私たち三人がころばつてしまひました。その時お母さんは、はなれてしまひました。それから高ば

しまでにげて行くと兩方から又やけて來ましたので行くところがなくなつてしまひましたので、私はいへんしんぱいしました。そこへてんま舟が來ましたのでその舟にとびのつて舟そこにはえりました。

お父さんたちは、舟の上で、水を舟にかけ、舟火事にならないやうにしました。

二日の日に舟どうさんにおじぎをしてお父さんと田舎に行きました。

子守をしてゐましたが、お母さんの事が心配でなりませんでした。

お父さんは私をおいて焼あとへお母さんをさがしに來ました。

するととなりの方から、お母さんはぶじてかめ戸の學校にゐることを知らされましたので、お父さんはよろこんで、お母さんにあひました。そして私をつれに來ました。

あの火事のおりはずいぶんおそろしかつたので二日の朝川の中にも道ばたにもくろこげの人がたくさん死んでゐました。



今はゆめのやうです。

あそんだこと

本所區 菊川尋常小學校

第二學年 佐藤常作

私はきのふ近所のお友だちと、おにごつこや、かくれんぼうをしてあそびました。

僕がをになつた時十一人のともだちと手をつないで「あそこのどぶのところゐた」といふておつかけたら四人つかまひました。

ぼつぼつ雨がふつてきたので、家へかけこみました。家に一年生の弟がゐますから、二人で本を讀んだりさんじゆつのおけいこをして學校ごつこをしてあそびましたが、づいぶんおもしろかつたのでした。

いもうととあそんだこと

本所區 菊川尋常小學校

第二學年女 中山知子

このごろは春らしくなつて來たので、よほどあたたかになりましたので家のいもうともやつと外に出てあそびたがるやうになりましたがさむい時は外へ出るのを大へんいやがりますので私と家でおばさんごつこして岡部さんと孝子とあそんでおります時時ていちゃんがあそびにきますから四人であそびますとていちゃんがいしやだのおかみさんになつてあそびます。それを見ると昔がわらうのできまりがわるいので外へ出て行きますと内の孝子がおつかけてつかまへますとまたそれをします。またいろいろと思つて戸をあけるとすぐに内の女中がつかまいて來ます。



### ぢしんと火事

深川區 深川尋常小學校

第二學年男 久保 谷 健 次

ぼくはあさおきてごはんをいただいてがくかうへいきましたながくかうからかへつてきておもててあそびましたまへの子が本をよんでおましたからぼくもみておましたすると家がぐらぐらうごきだしましたおかあさんがあぶないからといいましたのでうちの中で小さくなつてふるへておましたぢしんがとまりましたするとまたぐらぐらうごきはじめましたそうしたらうらの家がつぶれましたこわくつてぼくもいもうともおうおうなきましたつぶれたうちのおとうさんと三年位のおとこの子とないておましたぼくはかわいさうだとおもひましたぼくは火がきたのもしらないてまどをあけてみましたら火がぼろ／＼まどへはいつてきましたそれからさとうやのまへへきましたそうするとむかうの

火がどんどんおつかけてきましたあつくてあつくてたかばしのところまでにげました高ばしのところから一本みちでつきしまへにげました

### 今年の九月一日のできごと

深川區 深川尋常小學校

第二學年女 青山 惠 以 子

私が學校からかへつてきておかあさんとおねいさんとおともだちとお二かいにりましたちようどおひるごろでしたうちがぐら／＼うごいておかあさんがぢしんだとおいひになりましたこわいのでおかあさんのそばへみんなかたまつてました少ししづかになりましたから下へおりましたおみせの人はおもてへ出ておりましたおにはの大きなとらうがたをれておりましたいそいで外へ出ましたらきんじよの人がたくさんさはいでおりましたおとなりのおくらがこわれてろじがうまつてしましましたそれからこのやねもかわらがたくさんおちてりました私



の家のかわらもやはりおちてみましたおかあさんやおねいさんといつしよにおもてへ出ますとすぐにぢしんのゆりかへしがありまして又かわらがおちてきますのであぶなうございしましたみんな電車みちにおりましたからけがはしませんでしたそれからおみせの人たちがいすやこしかけをもつてきましたそこへおとうさんがくるまでおかへりになりました。またそれからおむすびをたくさんこしらへましてにげてきたよその人にサイダーといつしよにあげましたらたいへんにみなさんがおよろこびでしたそのうちににげてくる人がだんくふへてきてましてむかうの家へゆけなくなりましたのでうちのおくのおざしきにおりましたら森下町のほうから火事で家のやけた人がたんすやきものつつみをもつてにげてきましたおとうさんが外へ出ましたからいつしよに又おもてへ出ましたらたいようがまつか見えまして少しもまぶしくありませんでしたそのうちにほうくゝの火事がだんくゝ大きくなりましたにてもつをくるまへのせたりかついだりしてにげてくる人がふへてきまし

た外がくらくらしますのでばんのおむすびをたくさんこしらへはじめましたそのうちにきうに火の子がきんぢよの家につきました外の人が大きなこえをあげてにげました私はおとうさんにおぶさつてみんなといつしよににげましたすぐそばのたかばしをわたるときたくさんの人がおされてたをれましたやつとはしを渡りましたらおかあさんもおねいさんも二十五人ほどのおみせの人がわからなくなりましたいつしよに居たのは十五と十六になるおみせの人でしたしばらくおかあさんやおねいさんをさがしましたかわかりませんでしたそのうちに火がだんくゝちかくなりますのできよすみ公園のほうへにげましたそこでおみせの人二人にいましたそれからたくさんの人におされてくる江町までにげましたそのうちにどちらを見ても火事が大きくなりますのでくらいらしいらぬみちをおとうさんにおぶさつてにげましたとちうでおとなりの人にあひましたそのうちにはしをわたつてゆきますと左のほうにたくさん人がありましたその中へおとうさんはいつてゆきましたそ



のときにはとちうであつたおみせの人二人とおとなりの人に又はぐれ  
てしまいましたそこはえつちうじまのはらでありますそのはらでみ  
んな火の子をあびてたすかりましたまあなんとこはい九月一日のでき  
ごととせう今思ひ出してもみぶるいします。

私どものきやうしつ

深川區 東川尋常小學校

第二學年男

湯 淺 辰 一 郎

私どもは大ぢしんや大火事でほんとうにこまりました。

私どもの友だちも死んだ人やどこかへ行つてしまつた人もあるでせ

う。

私はやちまたへにげて行きましたがすぐ東京へかへつて來ました。

そして學校へあがりました。

私どものきやうしつは猿江小學校の二かいをかりてゐます。

きやうしつのまどはあんべらで中にはござをかけてゐる所もありま  
す。

はいりぐちもござをぶらさげてあります。

このごろはやつと板をほそくわつてしきりをこしらへましたがおと  
なりのけいこが見えます。

つくゑはふたがありません。

ろうかなどは風が吹くとほこりだらけです。

このごろは人かすが少いからもとの二くみを一くみにしてあります  
そしてべんきやうをするじかんもすくのうございますがそれでも私

どもはしあわせの方です。

ほかの學校では天とをはつてその中でべんきやうをして居る所もあ  
ります。

私どもはほんとふにしあわせです。



### 大ぢしん

深川區 東川尋常小學校

第二學年女 村田カヨ

私は學校からかへつてきてからまもなく大ぢしんでおどろきました。

その時にはまへのあきちに居りまして居るうちにだんだん日がくれてきました。

かじはだんだんちかくなりました。

私は學校のおどろぐを一番さきにしよいました。

おとうとのまさをおかあさんがおぶひました。

私はおかあさんにてをひかれていつしようけんめいににげました。

にげた所はすなむらのしんあら川のどてでした。

どてについたころは十二時でしたよのあけるのをまみました。

それからうきたへまへりました。

まへりました所がつなみかくるとのことて又ゐなかににげました。

にげる時にはきしやがこんでこまりました。

ようやくゐなかへつきまして四十日ばかりおせはになりました。

それから東京にばらつくができましたよやくかへつてきました。

### バラツク

深川區 明治尋常小學校

第二學年男 大塚 信夫

さむい／＼バラツクの

まどのすきまに

紙をはる

はつても／＼

ピユウ／＼とつよい風

深川區



がふいて来て

みんな紙を

やぶります

地しんはこわい 火事はこわい

深川區 明治尋常小學校

第二學年男 戸嶋信三郎

地しんはこわい

火じはこわい

ぼくの家はやけちやつた

となりの家もやけちやつた

東京中みなやけて

野原のやうになつちやつた

橋もない、でん車もない

れんぐわや瓦がごろごろしてゐる

どこへ行つても黒こげの人が山のやうだ

どうしてこんなになつたでせう

はらがへつてもどはんがない

のどがかわいても水がない

ばんになつても家がない

あゝ地しんはこわい

かじはこわい

バラックノ學校

深川區 東陽尋常小學校

第二學年男 茂木眞一郎

九月一日の大地しんで方方の家がつぶれたりやけたりやけたりしましたが、あのをきれいだった東陽學校も地しんや火じですつかりやけてしまひま



したはじめはみんなやけたかはらの上てべんきようしてゐたそうです。その時ほくはいなかの學校へあがつてゐました。

十月になつてこちらへ來た時にはもうバラックの學校ができてゐました。それから今年の二月十六日に來て見たらつくゑがならべてあつたのでみんながとんでよろこびました。先生がふしあなに紙をはつてくれたりストーブがあつたりするのでちつともさむくありません。さうしてみんながげんきよくべんきやうしてゐます。

私のすきなおにんぎやり

深川區 東陽尋常小學校

第二學年女 篠原文子

私のすきなおにんぎやり。

私は大地しん前に、かはいいおにんぎやうをもつてゐました。名は花子と申します。

それはそれはかはいいお目目をしてゐました。

あるとき花子さんを出すのをわすれました。

今日學校でおにんぎやうのうたをならひました時、花子さんのことを思出してかなしくなりました。地しんの時なぜ出さなかつたかと思ふとくやしくてたまりません。やけあとのひかきをした人にきいて見ましたが花子さんはどうなつたかわかりません。花子さんはひとりでにげたのでせうか。そうして今ごろはまひ子になつて、私をたづねてゐるでせうか。

ばらつくの家

深川區 六間堀尋常小學校

第二學年女 霜島よし子

九月一日の大ぢしん、大かじで、やけた、ために私たち、東京の人たちみんな、ばらつくの家にする事になりました。ばらつくは、さ



むいことは、ひととほりではありません。夜になると、とやいたのす  
きまから、つめたい風がふきこみます。あめのふる時などはあめがあ  
たつて、大きな音がします。

そのときは、私は大そうこはいと思つてゐます。

これからはゆきやしもがふつたら、どんなにさむいでせう、それで  
すから私たちはからだをだいにしなければなりません。

### 九月一日のぢしんとくわじ

深川區 六間堀尋常小學校

第二學年男 中川竹次郎

あのおそろしいぢしんとくわじには、にげるときは、むちうでした  
僕とにいさんとにげたのです。おとうさんとおかあさんとは、あとで  
にげたのです。僕とにいさんはまるのうちに、にげました。おとうさ  
んとおかあさんは、きよすみこうえんににげたさうでした。私たちは

そのあくるあさ、しばこうえんにいきました。それから十日にうちの  
やけあとにかへつてきて、たてふだをみて、きよすみこうえんにいつ  
て、お父さんやおかあさんにあつてうれしかつた。  
そしてかりのばらつくでゐました。それからひとつきばかりたつて  
からもこのところてよいばらつくにゐます。あのとこのことをかんが  
へるとぞつとします。

### クルシカツタコト

深川區 扇橋尋常小學校

第二學年男 盛田三郎

私ハ九月一日ノシキガヲハツテヨシカツサントアソソデキマシタ、  
ソウスルトヂシソングキマシタ、私ハスグニ家ニトビコンデキマシタ、  
ソノウチニ私ノ家ハミリミリト大キナ音ガシテツブレテシマヒマシタ  
ソレデ私モオトウサンモオカアサンモ下ジキニナツテシマヒマシタ、



クルシンデヤツトアナカラハヒ出シマシタ、ホカダサノウチデオム  
スビヲイタダキマシタガアマリオドロイタノドヘトホリマセンデ  
シタ、ソレカラ少シタツトツナミガクルトイフ人ガアリマシタノデ舟  
ニノツテニゲマシタ、火事ノ火ハダンダンチカヅイテセナカガヤケル  
ホドアツウゴザイマシタ。

大ぢしん

深川區 扇橋尋常小學校

第二學年女 福島シゲ

へるさうじょうします。がたがたどうどうゆれだした。はしらはまがるかべはおちるまどのしやうじが

とんでてた

おはちはざしきを

ころころころ

ほんとは私はこはかつた

ねてゐたいもとは

とびをきて

まるい目だまで

だまつてた

ぢしん

深川區 臨海尋常小學校

第二學年男 入山 晟 一(九才)

私が學校で式をすませて、家へかへり、おひるのごはんをたべてゐ  
ますと、なんだかたんすのかんが、がたくしたと思ふと、家がぐら



ぐらとゆれだして、大ぢしんになりました。おどろいてとだなのとおさへたりなぞしてゐるうちにやうやくぢしんはやみました。そこで外へ出ましたが、そのうちに火事があちらにもこちらにもおこつてとう／＼にげあるゐて、そのあくる日もなにもたべませんでした。私はまだ、あんなにおそろしい事があつてはこまると思つてゐます。

### はつゆき

深川區 臨海尋常小學校

第二學年女 平 間 信 子(十才)

二十六日の夜あめがふりましたので私は早くねました。そうして四時にめがさめました。そうするといさんがおきてゐてゆきがふりましたといひましたので、私はおきてみますと、ほんとうにゆきがつもつてゐました。それから私はおかあさんといつしよに火

をたきはじめました。

そしていもうとがおきましたのでごはんをたべて、それからいさんにゆきだるまや白うさぎをこさえていたゞきました。そして私もまねをしました。私のはまづくできました。そのうちにおひるになりました。

### 九月一日

深川區 元加賀尋常小學校

第二學年男 池 田 政 之 進

私のうちでは、うちがつぶれて、私はたんすにかぢりついて、はなさなかつたのです。おとうさんがまどをやぶつてくれましたから、まどからでました。それから、こうえんに、にもつを出しました。すると、れいがん學校に火がつかしました。又おつかなくて、はかばに出来ました。そしてしばらくそこにゐました。その中に又、火がきましたの



でとうとう池にはいりました。

### 大ぢしんの日

深川區 元加賀尋常小學校

第二學年女 寺嶋シヅ子

九月一日。それはあのこはかつた大ぢしんの日です。私はあんなひどいことにあつたのは、生れてはじめてです。お母さんはびやうき。お父さんはおしごと。私はをばさんのうちへあそびに行つて、にんぎやうの着物をぬつてみました。「ぐらぐらつ」と、音がしたと思ふと、「ぢしんだ〜」といふこゑが聞え、家がばたばたとたふれました。二かいからころげるやうに下りた私は、をばさんにおぶさつて、おいなりさまのにはにげました。こゝでやつとお父さんにあひました。よそのおばあさんたちは「なむあみだぶつ〜」といつて、ふるへてみました。そのうちに火が四方からもえてきましたので、大六の原へにげ

てゆきました。

### ぢしん

深川區 數矢尋常小學校

第二學年男 村井英男(十才)

僕は學校からかへつて來てうちの工場に居ました。そうするとがらがらといふ音がします。私はすぐ外へとび出しました。

まもなくぢしんはやみましたが、又ぢしんは來ました。うちのとなりの行田さんの家がつぶれました。そうすると日がくれて來ました。それでうちのきんじよの人がどんどんにげて行きます。もうきんじよの人がにげてみなくなつてから、僕たちはにげて行きました。日はだんだんくれて來ました。



### 九月一日のぢしんと火車

深川區 數矢尋常小學校

第二學年女 須田 伊奈 (十才)

私はぢしんが来るまであさみさんとおくわしやさんをして居ました私があさみさんのところへ今日はに行きましたらぢしんがきましたかからお母さんがいそいできました。みんなでお母さんといつしよにおくのおざしでかたまつてみましたら、お父さんやおぢいちゃんや小ぞうのひさをがきました。それから私たちは電車にのりました。あさみさんの家ではいろいろなおくわしを下さいました。その時平井町がやけてみました。それで三時ごろになつてからうめたてちへにげました。それから火のこがとんできましたのでふとんをかぶつてみましたらお父さんなどが火のこをけして下さいました。二日目にお父さんやこぞうなどてたべものを取りに行きました。三日目の明方になると〇〇〇

〇人がくるといふのでみんなで向ふのをかへいきました。その時ひばりばしがやけおちて通れませんでした。お父さんはざいがう軍人のなかまで〇〇〇〇人を中心するので私やお母さんや、おばあちゃんや、よね子や、とみ子などはお父さんにわかれしました。おぢいちゃんといいたいばしまで行きました。が通れないので船の方へ行くとよその女の人が子どもをつれてはんやけになつて死でみました。それから船にのるところで一時かんも待つてみました。そして船にのつて向ふへ行きました。それで大ききの學校へ二ばんとまりました。おぢいちゃんがお父さんをたづねて中野へ行きましたので私たちがばりきで中野へ行きました。私はそれから中野のももぞの第一學校へ上りました。



### みなかの學校

深川區 八名川尋常小學校

第二學年男 河村 忠藏

私は去年の大地震で、市川へにげました、市川學校で色々なものをいたゞきました、學校では友達が親切にしてくれました、先生には、ちやうめんや、えんびつや、ふでや、かみをいただきました。

友だちにも本や色々なものをいたゞきました、そして毎日學校へいきました、市川學校は小さい學校ですが、うんどらばも廣いし僕たちのあそぶところがたくさんあつて、おやすみ時間には、大ぜいの友だちとまりなげをしてあそびました、僕は、バラツクのお家にかへつて、元の學校に行くのがいやになりました。

### しんせつなおぢさん

深川區 八名川尋常小學校

第二學年女 川崎 芳子

きよ年の大火事の時私は、おとうさまと、としちゃん、けんちゃん、えつ中島へにげました。そこは家がないので、おとうさまがいたをひろつてきて、小さな内を、こしらへて下さいました、其の晩は大火事で家がやけましたから、そこで一晩とまりました。

そして夜が、あけると、おとうさまは、おなかがすいたやうだから何かかつてきてあげようといつてゐらつしやると、せんどらさんが大きな、おむすびをくれました、私はそのおむすびを、たべた時おいしい事つてありませんでした。

するとおとうさまは、ごしんせつに、ありがとうございます、うちの子どもはよろこんでたべましたといつて、おれいをいひました。



私はその時のありがたいことは、いつまでもわすれません。そして  
そのおぢさんのごしんせつをありがたいと思います。

おそろしかつたぢしん

深川區 川南尋常小學校

第二學年男 大橋 富

私はぢしんの時、よその内にあそんでゐました。内のおかあさんは  
ねてゐました。おかあさんはびつくりしてとびおきてすぐとはしらに  
つかまつて外へ出て内のこどもはどこへいつたと大きなこえてよび  
たてました。そして内の子どもはとなりにもませんかとさゝにきまし  
た。となりではいつしやうけんめいおがんでいました。内のおかあさん  
もとなりへ行つておがみました。そしてぢしんがやんでからはらつば  
へ出てゐました。その時は戸をはづしてはらつばへしいてその上にす  
はつてゐました。一時間ばかりたつともう西平井町がやけてゐると言

つてどんどんにもつをはらつばへはこびました。まもなくおほぎばし  
に火がついた。その時もうあつくてたまりませんからにげていきまし  
たがどこだかわかりませんでした。きがついてたててあつたふだを見  
たら中川の土手と書いてありました。中川の土手に竹をはしらにして  
かやつつてゐる人がありました。こんどは〇〇〇〇〇〇さはぎでへい  
たいがすな村の學校へにげろと言ひましたから大いそぎでにげて行き  
ました。

ぢしんの時

深川區 川南尋常小學校

第二學年女 島 屋 た ま

私は先生や、せいとや、皆で、式をしてかへりました。そうして一  
時間ばかりたつと、大きなぢしんが來ておどろいて、はらつばに皆が  
にげました。私はすさきからくわじが來て、こはくてたまりませんの



て川南學校へお父さんやお母さんとにげて來ました、そしてちよちやんの内のおばさんや皆で内てたいたごはんをにぎつてたべました、そうして少したつてから、向ふの方から火のこがとんできました。

私はあはて、お母さんに早くにげませうとすがりました、お母さんはそれならおにかいのおぢさんと早くにげて行きなさいと云ふから、私にもつをしよはせて下さいと云つて、そうして子供をつれておにかいのおぢさんとにげました、それでえんそくに行つたところへにげて行きました。

そしてちつとたつと朝になりました、お父さんがたまちやんたまちやんと大きなこゑをして、よんで來ましたので、よろこんで一しよに、すな村學校へ行つて、それからみなかへ行きました。

おそろしいぢしん

深川區 明治第二尋常小學校

第二學年女 井 上 高 子

學校からかへつて來て、校長先生に、お話をしていたいたいのを、おかあさんにお話をしてゐると、ミシ／＼と、家がゆれだしたと思ふと、からかみはとんでしまふ、まへの家はつぶれる、私はお母さんにすがりついて、「ナンミヨウホウレンゲキヨウ／＼」となきながら、いつてゐる所へやねの上で私の名をよぶので上をむいたら兄いさんがいたので、私はお母さんと二人で兄さんに手をひつぱつてもらつたので、やうやくやねの上に取りました。そこへお父さんがとんできました。お父さんがきたときは、もう火は八方にまはつてゐました。八名川町から、しぶさはそうこに、にげていつて、それから永代の橋をわたつて、丸の内の方へ行く道で、人にぶつかつたり、人におされた上、



風はピユウ／＼と吹きその上につむじ風がおこるし、火はドン／＼私  
のあとをおつてきます。やうやく丸の内へきました。松の木の下で方  
々を見たらば四方八方みな火であります。私はねやうと思つても、お  
そろしくてとてもねむられません。

ぢしんとかじ

深川區 明治第二尋常小學校

第二學年女 野本 由き子

私はぢしんるときにはねえちゃんにおぶさつてにげました。おかあ  
さんはなんにももつてにげませんでした。

おとうさんはほとけさまをもつてにげました。つきじのせいろかじ  
やういんのところにならなかつておりました。そしてあとからまだかじ  
がおつかけてくるのでしばのぞう上じへにげました。しにんがたくさ  
んいたのでびつくりしました。

九月一日

深川區 靈岸尋常小學校

第二學年男 鏑木 寅之助

私はうちの前のおやしきへにげました、けれども火が五六けんさき  
のうちにならなかつたので、そのおやしきから、森下のとほりへ出て、た  
かばしの方へにげてきました、たかばしの上は、人がいつぱいになつ  
て、なか／＼とほれませんでした。そこをとほつてやうやく、いわさ  
きのうらもんへつきました、そしてせいやうくわんのところへいきま  
した、もしたらせいやうくわんも、もえたので、こうえんの方へいき  
ました、そのあくる日になりました。そしてうちをこしらへて、その  
中でくらうをしてみました、それから十日ばかりたつてから、ふかが  
わ學校のバラツクにならなかつた。



九月一日

深川區 靈岸尋常小學校

第二學年女 牧野 うめ

おついたちの大ぢしんは、まことにおそろしうございました。私はたのしい學校からかへつて、ごはんをいただいたいてみると、どしんくと何だかゆすぶれる様なきがしました。

その内にきんじよの人人が、それじしんだといふ中に、大ぢしんになりました。

私はお母さんと、そとへでてみますると、そとは一ぱいの人でした。その内に、あちらからも、こちらからも、火がもえて來ました。私はもう生きてゐられないと思つて、おうさや、お母さんとにげました。ふねにのるとせんどろさんが、一人じや出せないといひますので又その舟をおりて、どんどのてあいをいばしのところで夜をあかしました。

た。三日目にはいわさきこうゑんに來ました。四日のあひだなんにも、たべませんでした。

一月十五日 ぢしん

深川區 猿江尋常小學校

第二學年男 土産田 卯之助(十才)

十五日のあさ。あんまりあたたかいのでぢしんがなければいいなあといつてゐましたらぐらぐらとゆれて來ました。そのうちだんだん大くなつて來たので外へとび出ました。兄さんは外のものほしぎをにつかまつてゐました。そしてすこしたつとぢしんがやみましたから外をみますとばかにもやがかゝつてゐました。おつかさんに「此のもやはどうしてなつたの」とききますと「ぢしんがあるときは、たいがいもやがある」とおつしやいました。そのときむねはどきどきしてたまりませんでした。が家はつぶれませんでした。はだしてす

深川區

四一七



から中中上るのがめんどうでした。がやつと上りました。そしてごはんをたべてがくかうへ行きました。

### 私の家

深川区 猿江尋常小學校

第二學年女 岡田 ミヨ

私の家のおとうさんは、しんさいからびようきになつてゐて、「やけたところに家をたててもものみやたべものにふじゆうですから」といつてほつかいだうへ行きました。それからほつかいだうの、おび廣といふところでおとうふ屋をしました。があまりよくないのでどをぐを賣つてまた東京へ來ました。そして兄さん方三人で家のふしんにかかりました。その間私どもはをばさんの家にとまつてゐました。その中家ができました。たたみのかずは七でふです。三尺のおしれが一つあります。だいどころが一けんです。まどが二つありますがまだ二つ

ともぶつけにしてあります。天じやうにかみがはつてありますから、つゆがもりません、私の兄さんは、しほはまの工場で板のけつそくをしています。





震災紀念文集 第二尋

大正十三年八月廿五日印刷  
大正十三年九月一日發行

【定價金壹圓】

著者

東京市役所

發行者兼印刷者

東京市京橋區銀座二ノ一五  
株式會社 岡本洋行出版部

右代表者

培風館

山本慶治

發行所

東京市京橋區  
銀座二ノ一五

培風館

電話青山三二六八  
振替東京三二六一七

(價定)

圓壹	(三尋)	錢拾七	(一尋)
錢廿圓壹	(五尋)	錢廿圓壹	(四尋)
圓壹	(等高)	錢卅圓壹	(六尋)



六 洋

國英日法文書 第二

英 日 報  
東京市丸の内區  
報 風 論  
東京市丸の内區

東京市丸の内區  
報 風 論  
東京市丸の内區

大正十三年六月一日發行  
大正十三年六月一日發行

【東京市丸の内區】

(一) 小 谷 誠 (二) 中 谷 誠  
(三) 大 谷 誠 (四) 小 谷 誠  
(五) 中 谷 誠 (六) 大 谷 誠



288
231





培風館發行  
東京